

平成24年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査から

《国語》

- ・1年では「音声言語」2年では「文法・表記・言葉遣い」3年では「説明的文章」は正答率が高い。しかし1年では「説明的文章」、2年では「話す・聞く能力」3年では「漢字」の正答率が低い。
- ・今後はより一層継続的・反復的なきめの細かい学習指導を進めていきたい。

《数学》

- ・1年では、「数量関係」2年では「図形」3年では「数と式」の正答率が高い。特に2年は市の平均正答率と比べても同程度か上回る状況である。しかし1年では「数学的な表現・処理」3年では「数量関係」で宇都宮市の平均正答率を下回っている。
- ・それぞれ「数学的な見方や考え方」の領域の正答率が他の設問と比べて低いので、復習問題集やワークを利用して反復練習させたい。

《英語》

- ・1年から3年まで「リスニング」が市の平均正答率を上回っている。特に2年は市の平均正答率と比べても同程度か上回る状況である。しかし1・3年英語では「表現の能力」の領域が低い。
- ・授業の中で文法や英作文、または表現を数多く取り入れて練習させたい。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・「先生や友だちとあいさつをする」「ことばづかいに気をつけている」「きまりやマナー、約束を守ることは大切だと思う」を肯定する割合が多く、「学校生活に満足している」生徒がとて多かった。
- ・「先生から指されたら、返事をしている」は各学年とも肯定割合が低いことが課題であり、返事の徹底に取り組む必要がある。「先生や友だちの話を、最後まできちんときいている」の肯定割合はとて高い。
- ・「ふだんから『ふしぎだな』『なぜだろう』と感ずること」が多く、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と感ずる生徒がとて多い。家庭学習ではめあてを決めて取り組んでいる生徒が多く、「宿題はきちんとやり、期限まで提出している」を肯定している割合が多い。しかし、「家庭学習に必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」生徒の割合はとて低いことは課題である。
- ・「様々な人の生き方に感ずることがある」「いろいろな種類の本を読むことは、楽しい」を肯定した割合が多く、特に3年肯定割合は高かった。

(3) 授業への取組状況から

- ・授業や与えられた学習課題については、熱心に取り組むことができる。
- ・授業は集中して受けることができているが、グループなどでの話し合いには積極的に参加できない。また、返事をし、積極的に発言できる生徒が少ない。
- ・物事に興味・関心をもち、学習していて、おもしろい、楽しいと思って取り組めるよ

うになってきた。

2 今年度の重点課題

基本的な学習態度を育成し、学び合う楽しさを味わえる授業の工夫

○平成24年度 スローガン オンリー ONE！！

(互いに認め合い、磨き合おう)

3 今年度の取組 (『スタンダード』関連には、文頭に☆)

(1) 基礎・基本の確実な定着

○家庭学習の充実

課題の出し方や提出のさせ方の工夫

☆話の聞き方、発表の仕方など授業の受け方の徹底 (通年)

「学習の約束」の活用

・単元末テストの工夫とテスト後の支援 (5月、7月、10月、1月)

課題 (範囲) の出し方や追テスト、学習支援の実施

☆漢字テストや計算テストの実施 (8月、1月)

(2) 学習指導の工夫・改善

☆学習内容定着度調査、学習・生活アンケート等の結果の公表 (4月)

・生徒の実態に即した指導方法や教材の開発に努め、学び合う楽しさを味わえる

授業の展開 (通年)

○「言語活動の充実」を図り、特に、「書くこと」を重点課題として指導し、ノートのと
り方などを工夫する

・話し合い活動を多く持ち、積極的に発言できる学習指導をする

・忘れ物をさせない指導の工夫

(3) 読書活動の充実

☆毎日、朝の読書を実施 (通年)

○☆「学校図書館だより」を発行 (通年)

・司書によるブックトーク

・多読賞表彰の実施

(4) 家庭・地域との連携・協力

○☆三者面談等において、家庭における学習の習慣化等についての話し合いの場の設定

○☆学校公開の実施

○☆保護者会において、学習指導 (家庭学習の重要性など) や「学習・生活アンケート」
の結果の説明